

<生活科における活用のポイント>

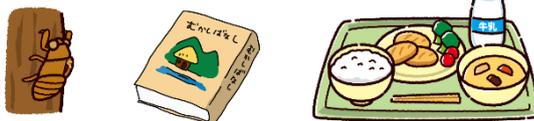
- ①学習対象への興味・関心の喚起や、記録した情報をもとにした伝え合いの充実
- ②活動後に自らの取組を客観的に振り返り、活動のよさに気付く

※生活科では、身近な環境と直接関わる活動や体験を重視している。低学年児童の特質である、対象（人・もの・こと）を自分との関わりで一体的に捉える傾向を踏まえ、計画的に活用する。

事例1 第1学年 単元名「がっこうだいすき」 がっこうたんけんをしよう

使う機能：カメラ、録画

- ①・卒園した園（下駄箱、ロッカー、本棚、トイレ、給食室、園庭など）の写真を見ながら、園での活動の様子を紹介する。
 - ・「〇〇さんの好きな遊びは？園庭にはどんな虫がいたの？
 - 絵本や歌は何が好きですか？好きな給食・ちょっと苦手な給食は？」
 - など、聴き合いながら友だちのことを知り、安心できる。
- ②児童が自由に校内を探検し、「園と小学校の違うところ」に着目して、見つけたことや出会った人を写真に撮る。
- ③教室に戻り、各自の端末をテレビやプロジェクターにつなげ、見つけたことを発表する。



効果的ポイント

ワークシートに比べて、持ち物が少なく手軽なため、集中が途切れない。まだ文字や絵で十分に表現できない1年生にとって、伝えたいものをしっかりと記録できる点で、発信したいという動機付けになる。

事例2 第1学年 単元名「あんぜんにくらそう」 通学路を家族と歩こう(★)

使う機能：カメラ、録画

- ①授業参観などで、交通指導員さんの登下校の見守りの様子や、登校班長の6年生からのビデオレターを見て、自分事として安全への意識を高める。
- ②家族と一緒に下校して、通学路の安全点検をしながら、特に注意する場所を確認して写真を撮る。
- ③「もし、下校中に事故に会ったら、地震が起きたら」など災害を想定して行動を具体的に確認しながら家族と話す。
- ④記録した写真は位置情報と共に、校区の地図に落とし込む。
- ⑤写真について、気付いたことを書き加えた校区の安全マップを作成する。



効果的ポイント

地図はデジタル化し、保存できるので、2年生の町探検や総合「地域の防災マップづくり」の資料とすることも考えられる。

事例3 第1学年 単元名「じぶんでできるよ」 いえのしごとチャレンジ(★)

使う機能：カメラ、録画

- ①1日の生活の流れをふりかえり、自分でできそうなことを考える。
- ②家庭の仕事の中で、やってみたいことにチャレンジする。活動の様子を、家族に写真や動画で記録してもらう。
- ③家族の中の「おしごと名人」を見つけて、仕事をする様子を撮影したり、インタビューの様子を録画したりする。
- ④学校でそれらの写真や動画を使って報告会をする。気付いたことや考えたことを話し合う。



効果的ポイント

家庭での経験を写真や動画で記録し、学習活動をより身近なものにできる。保護者も巻き込んだ活動が展開できる。